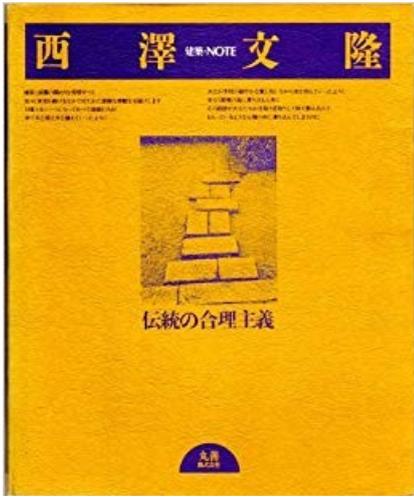


建築・NOTE 伝統の合理主義

西澤文隆 (丸善)



■今回は西澤文隆さんです。庭園論やコートハウス論で知られる西澤さんですが、厳島神社・金閣・彦根城・京都御所・桂離宮・修学院離宮・孤蓬庵・・・先人たちの歩んだ壮大な創作の道を会得したい！と実測を通じて見つけた宝の海の中を、「建築と庭園の関わり」の本にしてくれています。

■目次

- ・実測曼荼羅
- ・愛するとは心底まで
 相手を知り尽くすこと
- ・日本の風土の中で生まれた空間
- ・日本の合理性
- ・庭について・復元とは何か



■(本文より) 建築と庭の関わりを究明すべく、延々と実測を続けるなかで打たれた新鮮な感動をお届けします。対象と全く一つになってかつて庭師たちが、体で石を据え木を植えていったように、大工が木材の細やかな質と対しながら木を刻んでいったように、全くの愛情の海に浸り込むと共に、その庭師や大工たちが手取り足取りして体で教え込んで、もらっているような心情の中に浸り込んでしまう。実測をしているとものから体へと、先人たちの心が直に滲み込んできます。その透徹した合理主義には目を見張らせるものがあります。古今東西を貫く創造態度だったのです。先人たちはそれを梔子(てこ)として創造し、しかも合理に凝り固まることなく時には非合理の世界へと、遊泳し得て流動し飛翔する術を心得ていました。そのやわらかな心こそ、物をもものとして生かす道のようなのです。

■建築と庭・西澤文隆「実測図」集

透けた空間(寝殿造系統)、密な空間(書院造系統)、歩く庭(茶庭と廻遊式庭園)、庭と呼ばれない庭・・・

現在までも建築と庭の関係を捉えた書物がありません。その為に、建築と庭が遊離して認識されています。庭園の中でも日本の庭園は建築から独立して存在するものではなく建築と密実に結び付いたものであること、敷地全体で両者をどのようにバランスを取り配合すべきものであるかという事を、如実に示したいと思います。私の本は、説明文を極度に減らし写真と図面で視覚的に感得できるようにするつもりです。(実測依頼文より) 敷地全体に拡がる空気の充満と風の流動を感じさせてくれます。(黒野)



■西澤文隆の仕事全3巻

- (一) 透ける
- (二) すまう
- (三) つくる

